

## 御蔵島の鳥類目録

小木 万布<sup>1)</sup>・広瀬 節良<sup>1)</sup>・伊藤 俊一<sup>2)</sup>

1) 御蔵島観光協会 〒100-1301 東京都御蔵島村おうし屋敷

2) 御蔵島郵便局 〒100-1301 東京都御蔵島村

### 緒言

御蔵島を含む伊豆諸島には、日本固有種や島嶼環境に適応した亜種など多くの鳥類が生息している。特に三宅島では、商業的にも趣味的にもバードウォッチングが盛んに行なわれており、渡り鳥を含めると 264 種の観察記録が残されている（江崎ら, 2011）。八丈島でも、内外の愛好者や研究者によって報告がなされており（例えば：高木ら, 1986）、287 種の鳥類リストが作成されている（八丈ビジターセンター, 2009）。翻って御蔵島における鳥類の記録を見てみると、古くは 1961 年、白井が御蔵島において 17 日間の調査を行い、21 種を観察または採集、それまでの記録をまとめて 45 種を報告している（白井, 1961）。その後、御蔵島の鳥類相に言及した報告はほとんどない。最近になって、2002 年に西海が御蔵島の鳥類の垂直分布について調べており、22 種 578 個体の記録をしている（西海, 2002）。その後、菅野によるセンサス調査の結果が行なわれており、4 年間の調査で 61 種の鳥類が記録されている（菅野, 2006）。御蔵島島史には、これらの記録をまとめて、99 種の鳥類目録が掲載されている（川本, 2006）。八丈島、三宅島において観察記録が 250 種を越えているのに対して、御蔵島での観察記録は 100 種に満たず、川本以降は御蔵島での鳥類観察記録をまとめた報告もない。そこで、今回は、島史や過去の日撃例などを精査できるよう、新たに発見記録のあった鳥類も含め、御蔵島で観察されたことのある鳥類をリスト化することを目的とした。

### 材料及び方法

リストには、過去の文献に掲載されていた種に加えて、目撃情報や撮影で、新たに種が同定されたものを含めた。陸上で観察できたものだけでなく、岸から数百 m の沿岸域での観察種も含めた。写真がなく、観察場所や観察日の記録がない目撃情報については、未記載とした。掲載根拠は、M: 御蔵島島史動物目録（川本, 2006）、C: 生体や死体の拾得、O: 観察（鳴音のみも含む）、P: 写真記録、とした。標準和名と学名は、日本鳥類目録第六版に準じた。リストの順番は、目および科は鳥類目録順としたが、種に関しては一般島民が

活用しやすいように、標準和名の五十音順とした。

## 結果

1992年～2012年の20年間で、17目46科140種の観察が記録されていた。うち、明らかに人為的に島に運ばれたものが、コジュケイ、キジ、ルリコンゴウの3種であった。コジュケイは1959年12月に三宅支庁産業課によって放鳥されており（西川ら, 2006）、キジも同様に放鳥記録がある。ルリコンゴウは、経路は不明であるが1990年頃より里付近で度々目撃されるようになった。一時、保護されていたが、1999年に放鳥され、2012年現在も頻繁に目撃することができた。今回新たに加わった種は、43種となった。

## 御蔵島で観察された鳥類リスト

### ミズナギドリ目

#### アホウドリ科

クロアシアホウドリ *Diomedea nigripes* M

コアホウドリ *Diomedea immutabilis* M

#### ミズナギドリ科

オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* M C O P

シロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca* C O

ハシボソミズナギドリ *Puffinus tenuirostris* M O P

#### ウミツバメ科

オーストンウミツバメ *Oceanodroma tristrami* C

### ペリカン目

#### ネッタイチョウ科

アカオネッタイチョウ *Phaethon rubricauda rothschildi* C

シラオネッタイチョウ *Phaethon lepturus dorotheae* M

#### カツオドリ科

カツオドリ *Sula leucogaster plotus* M O P

#### ウ科

ウミウ *Phalacrocorax capillatus* M O P

#### グンカンドリ科

オオグンカンドリ *Fregata minor minor* O

### コウノトリ目

#### サギ科

アオサギ *Ardea cinerea jouyi* M C O P

アマサギ *Bubulcus ibis coromandus* M O P

クロサギ *Egretta sacra sacra* M

ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i>	M C O P
コサギ <i>Egretta garzetta garzetta</i>	M C O
チュウサギ <i>Egretta intermedia intermedia</i>	M O P
ミゾゴイ <i>Gorsachius goisagi</i>	M O
ヨシゴイ <i>Ixobrychus sinensis sinensis</i>	M
トキ科	
クロトキ <i>Threskiornis melanocephalus</i>	M
<hr/>	
カモ目	
<hr/>	
カモ科	
オシドリ <i>Aix galericulata</i>	O
オナガガモ <i>Anas acuta acuta</i>	C
カルガモ <i>Anas poecilorhyncha zonorhyncha</i>	C O P
キンクロハジロ <i>Aythya fuligula</i>	O P
コガモ <i>Anas crecca crecca</i>	C O P
コハクチョウ <i>Cygnus columbianus jankowskyi</i>	M O P
ヒドリガモ <i>Anas Penelope</i>	C
ヨシガモ <i>Anas falcate</i>	C
<hr/>	
タカ目	
<hr/>	
タカ科	
オオタカ <i>Accipiter gentilis fujiyamae</i>	M C
オジロワシ <i>Haliaeetus albicilla albicilla</i>	M O
サシバ <i>Butastur indicus</i>	M
ツミ <i>Accipiter gularis gularis</i>	C O P
トビ <i>Milvus migrans lineatus</i>	M O P
ノスリ <i>Buteo buteo japonicus</i>	M O P
ハイタカ <i>Accipiter nisus nisosimilis</i>	M
ミサゴ <i>Pandion haliaetus haliaetus</i>	M O
ハヤブサ科	
チョウゲンボウ <i>Falco tinnunculus interstinctus</i>	M O P
ハヤブサ <i>Falco peregrinus japonensis</i>	M O
<hr/>	
キジ目	
<hr/>	
キジ科	
キジ <i>Phasianus colchicus spp.</i>	M O
コジュケイ <i>Bambusicola thoracica thoracica</i>	M C O P
<hr/>	
ツル目	
<hr/>	

クイナ科		
オオバン <i>Fulica atra atra</i>		C O P
クイナ <i>Rallus aquaticus indicus</i>		C
ツルクイナ <i>Gallicrex cinerea</i>		C
ヒクイナ <i>Porzana fusca sp.</i>		M
<hr/>		
チドリ目		
<hr/>		
チドリ科		
オオメダイチドリ <i>Charadrius leschenaultii</i>		M
コチドリ <i>Charadrius dubius curonicus</i>		O P
ムナグロ <i>Pluvialis fulva</i>		M O P
シギ科		
アオアシシギ <i>Tringa nebularia</i>		O
アオシギ <i>Gallinago solitaria japonica</i>		O
イソシギ <i>Actilis hypoleucos</i>		M O P
キアシシギ <i>Heteroscelus brevipes</i>		O
キョウジョシギ <i>Arenaria interpres interpres</i>		O P
クサシギ <i>Tringa ochropus</i>		O P
タカブシギ <i>Tringa glareola</i>		O P
チュウシャクシギ <i>Numenius phaeopus variegates</i>		O P
ヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i>		M O
ツバメチドリ科		
ツバメチドリ <i>Glareola maldivarum</i>		O P
カモメ科		
ウミネコ <i>Larus crassirostris</i>		M O P
カモメ <i>Larus canus sp.</i>		M
クロアジサシ <i>Anous stolidus pileatus</i>		M O P
コアジサシ <i>Sterna albifrons</i>		M
セグロカモメ <i>Larus argentatus vegae</i>		O P
ミツユビカモメ <i>Rissa tridactyla pollicaris</i>		C
ウミスズメ科		
カンムリウミスズメ <i>Synthliboramphus wumizusume</i>		M C O
<hr/>		
ハト目		
<hr/>		
ハト科		
アオバト <i>Sphenurus sieboldii sieboldii</i>		C O P
カラスバト <i>Columba janthina janthina</i>		M O P

キジバト <i>Streptopelia orientalis orientalis</i>	M O P
<hr/>	
カッコウ目	
<hr/>	
カッコウ科	
カッコウ <i>Cuculus canorus telephonus</i>	O P
ツツドリ <i>Cuculus saturatus horsfieldi</i>	M O
ホトトギス <i>Cuculus poliocephalus poliocephalus</i>	M O P
<hr/>	
フクロウ目	
<hr/>	
フクロウ科	
アオバズク <i>Ninox scutulata japonica</i>	M O P
オオコノハズク <i>Otus lempiji semitorques</i>	M C O
コミミズク <i>Asio flammeus flammeus</i>	M
<hr/>	
ヨタカ目	
<hr/>	
ヨタカ科	
ヨタカ <i>Caprimulgus indicus jotaka</i>	C
<hr/>	
アマツバメ目	
<hr/>	
アマツバメ科	
アマツバメ <i>Apus pacificus kurodae</i>	M
<hr/>	
ブッポウソウ目	
<hr/>	
カワセミ科	
アカショウビン <i>Halcyon coromanda major</i>	C
カワセミ <i>Alcedo atthis bengalensis</i>	M O P
ヤマショウビン <i>Halcyon pileata</i>	C
ヤツガシラ科	
ヤツガシラ <i>Upupa epops saturata</i>	M O P
<hr/>	
キツツキ目	
<hr/>	
キツツキ科	
アリスイ <i>Jynx torquilla japonica</i>	O P
ミヤケコゲラ <i>Dendrocopos kizuki matsudairai</i>	M O P
<hr/>	
オウム目	
<hr/>	
インコ科	
ルリコンゴウ <i>Ara ararauna</i>	C O P
<hr/>	
スズメ目	
<hr/>	
ヒバリ科	
ヒバリ <i>Alauda arvensis japonica</i>	M
ツバメ科	

イワツバメ <i>Delichon urbica dasypus</i>	M
コシアカツバメ <i>Hirundo daurica japonica</i>	M
ショウドウツバメ <i>Riparia riparia ijimae</i>	M
ツバメ <i>Hirundo rustica gutturalis</i>	M O P
セキレイ科	
キセキレイ <i>Motacilla cinerea robusta</i>	M O P
セグロセキレイ <i>Motacilla grandis</i>	M
ハクセキレイ <i>Motacilla alba lugens</i>	M O P
タヒバリ <i>Anthus spinoletta japonicus</i>	O P
ビンズイ <i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i>	M O
ムネアカタヒバリ <i>Anthus cervinus</i>	M
ヒヨドリ科	
ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i>	M O P
モズ科	
モズ <i>Lanius bucephalus bucephalus</i>	M O
レンジャク科	
キレンジャク <i>Bombycilla garrulus centralasiae</i>	O
ヒレンジャク <i>Bombycilla japonica</i>	O
ミソサザイ科	
モスケミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes mosukei</i>	M O P
ツグミ科	
アカコッコ <i>Turdus celaenops</i>	M C O P
イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius philippensis</i>	M O P
コルリ <i>Luscinia cyane</i>	M
ジョウビタキ <i>Phoenicurus auroreus auroreus</i>	O P
シロハラ <i>Turdus pallidus</i>	M
タネコマドリ <i>Erithacus akahige tanensis</i>	M O P
ツグミ <i>Turdus naumanni eunomus</i>	M O P
トラツグミ <i>Zoothera dauma aurea</i>	M C O
ノビタキ <i>Saxicola torquata stejnegeri</i>	M
マミジロ <i>Turdus sibiricus davisoni</i>	O P
ウグイス科	
イイジマムシクイ <i>Phylloscopus ijimae</i>	M O P
ウグイス <i>Cettia diphone cantans</i>	M O P
ウチヤマセンニュウ <i>Locustella pleskei</i>	M O

エゾムシクイ <i>Phylloscopus borealoides</i>	M
オオヨシキリ <i>Acrocephalus arundinaceus orientalis</i>	M O
キクイタダキ <i>Regulus regulus japonensis</i>	C O
ヤブサメ <i>Urosphena squameiceps</i>	M
ヒタキ科	
オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana cyanomelana</i>	M O P
キビタキ <i>Ficedula narcissina narcissina</i>	M O P
コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica dauurica</i>	M
カササギヒタキ科	
サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata atrocaudata</i>	O
シジュウカラ科	
オーストンヤマガラ <i>Parus varius owstoni</i>	M O P
シジュウカラ <i>Parus major minor</i>	M O P
メジロ科	
シチトウメジロ <i>Zosterops japonicus stejnegeri</i>	M O P
ホオジロ科	
アオジ <i>Emberiza spodocephala personata</i>	M O P
カシラダカ <i>Emberiza rustica latifascia</i>	M O
クロジ <i>Emberiza variabilis</i>	C
ノジコ <i>Emberiza sulphurata</i>	M
ホオジロ <i>Emberiza cioides ciopsis</i>	M O
アトリ科	
アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>	M O P
イカル <i>Eophona personata personata</i>	M O
イスカ <i>Loxia curvirostra japonica</i>	M
ウソ <i>Pyrrhula pyrrhula griseiventris</i>	O
カワラヒワ <i>Carduelis sinica minor</i>	M C
ベニマシコ <i>Uragus sibiricus sanguinolentus</i>	O
マヒワ <i>Carduelis spinus</i>	M O P
ハタオリドリ科	
スズメ <i>Passer montanus saturatus</i>	M O P
ムクドリ科	
ギンムクドリ <i>Sturnus seriseus</i>	O P
コムクドリ <i>Sturnus philippensis</i>	M O P
ムクドリ <i>Sturnus cineraceus</i>	M O P

カラス科

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos japonensis* M O P

ハシボソガラス *Corvus corone orientalis* O P

---

合計 17 目 46 科 140 種

---

## 考察

御蔵島島史に掲載された 99 種のうち、ハチジョウヒヨドリ、イイジマウグイス、コカラヒワについては、日本鳥類目録第 6 版に掲載されている種ではないので、それぞれヒヨドリ、ウグイス、カラヒワと同種と判断した。また、ゴジュウカラも掲載されていたが、出典に不明な点が多かったため、本稿では未記載とした。八丈島および三宅島においても、ゴジュウカラの観察記録は無い。観察日時や場所が残っていなかったため未記載としたが、ルリビタキとワシミミズクを目撃情報があった。ルリビタキは、八丈三宅両島で記録があり、ワシミミズクも三宅島で記録がある。今後の報告が期待される。

三宅島、八丈島に比べて観察種数が著しく少ないことが明らかになった。島嶼部の生物の種数を比較する際、よく面積との関係や本土からの距離との関係が挙げられる。すなわち、ある島に生息する生物種数は、島の面積に比例することが多く、本土からの距離に反比例することが多い、という関係である。しかし、八丈および三宅島の両島において 250 種以上の観察があること、多くの鳥類が、本土から御蔵島より遠い八丈島で観察されていることを考えると、距離は関係ないように思える。これまでの御蔵島における鳥類観察報告の少なさから見ると、観察者や記録者がいなかったことが主な原因ではないだろうか。これを機に、少しでも多くの方が御蔵島で見られる鳥に興味を持ち、観察記録が集約されることを期待したい。

## 引用文献

江崎逸郎，篠木秀紀，内藤明紀．2011．三宅島で新たに記録された野鳥 8 種について．*Miyakensis*. Vol. 14, pp. 47-52.

八丈ビジターセンター．2009．八丈島で観察された野鳥リスト．pp. 8.

西海功．2002．御蔵島における鳥類の垂直分布．*国立科博専報*(38): 239-247.

白井邦彦．1961．御蔵島の鳥類相．*鳥獣集報* 18 卷 1 号．

高木真一，伊藤正道，高木由美子，伊藤薫．1986．八丈島の鳥類 2 年間の記録．*Strix* 5: 74-79.